

川棚小だより

学校教育目標

活力を持った思いやりのある子どもの育成

キャッチフレーズ 『笑顔で登校 満足して下校』

第6号 h30.5.30 文責 山口 厚

だれもが、

一等賞

運動会が終わりました。心配されていた天気も、五月晴れの好天に恵まれ、素晴らしい運動会を実施することができました。子どもたちは、ダンスやリレー等の個人種目はもちろんのこと、昼休みも応援の練習をしていました。朝の時間も応援の歌や運動会の歌の歌声が校舎中に響いていました。校長室にいても、子どもたちのそうしたはつらつとした声や動きを微笑ましく見っていました。

6年生は、最後の運動会ということで意識を高く持っていることが、1ヶ月前から伝わってきました。最初の全体練習から、動きや態度が違っていました。それに学校全体が引きずられたようでした。

そして、運動会！御覧になっていかがだったでしょうか。子どもたちは、よく声を出して、協力しながら臨んでいたし、応援もしていました。何より、一人一人が、一生懸命がんばる姿が、見られました。最後の得点発表の「わあ〜」という歓声が自然に出ていましたし、涙を流す6年生もいたのが何よりの証です。結果は、青組の優勝で幕を閉じましたが、3集団とも接戦であり、赤組、黄組の頑張りがあったから盛り上がったのです。

「一人一人のがんばる気持ちが一等賞」のスローガンどおり、一人、ひとり、だれもが一等賞の素晴らしい運動会でした。

最後まで、御声援いただき、ありがとうございました。



川棚小応援団見守り隊紹介

川棚小学校に赴任以来、朝、エレナ前の交差点の交通量が多く、心配していました。昨年度は、生活指導主任の朝長教諭が、ここで、立哨指導することもありました。

3月に開いた学校支援会議で、このことを委員の皆様と話したところ、写真のお二人が、立っていただくことになりました。

俵谷さんが、7時15分から45分の間の30分間に横断歩道を横切る自動車が、約150台あったそうです。車の多さがよく分かります。

お二人が見守っていただき、ありがとうございます。



俵谷勝衛さん



渋川明晴さん

フレイクタイム ~お気軽にお読みください。~

「脳へのご褒美として褒めることを心がけている」これは、母親の不適切な対応で傷つき、小児神経科医の友田明美医師の受診された父親の言葉です。

友田さんは、『子どもの脳を傷つける親たち』の著者で、クローズアップ現代や世界一受けたい授業にも出演された方です。先生も二人の娘の子育中に、娘が、何をしても泣き続けたり、言うことをきかなかったりで、親としての自分を問われる日々を経験された方です。最先端の脳科学の研究をしようと米国に留学し、研究に携わり、「暴力や暴言、家庭内暴力の目撃など大人の不適切なかかわりによって子どもの脳が変形するという衝撃的な結果が出たそうです。「臨床で診ていると、親も一生懸命なのです。良かれと思って空回りしている。子育てでストレスのない親はいない。親がもつ子育て困難感をとらなければいけない」とも力説されています。

学校も同様です。忙しかったり、急いだりするとつい、語調が強くなり、言葉がきつくなり反省する場合があります。教師がじっくり子どもと向き合えるようにしたり、多くの人が子どもに関わるようにしたりしなければと思っています。子どもたちがいつも笑顔でいられるように……。

(※ 参考 朝日新聞 5月26日付き b e 参照)

